

聞こえないってどんなこと ～暮らしの中の聴覚障害者～ ガイド

私たちは、幼いころから様々な音があふれた中で生活し、
その中で自然と言葉を覚え、様々な情報を得ています。
聞こえないということは、どういうことなのでしょう？

●考えてほしいこと ●説明

【生活】

●生活の中での「音」はどんなものがあるのでしょうか？場面を決めて考えてみましょう。（例：家の中、道路、駅、スーパー、病院等）「音」がなければどうでしょうか？また、工夫できることはあるのでしょうか？

●屋内信号装置は、来客の場合、赤ちゃんが泣いた場合など、音を光に換えて知らせる機器です。その他、体温計や目覚ましは振動で、キッチンタイマーは光で知らせられる機器もあります。

【病院】

●病院では、どんなことが不便でしょうか？筆談ですべてが理解できるでしょうか？3分間、筆談だけで会話してみましょう。

●病院は、命に関わる大切な場面です。十分な情報が得られるような情報保障が必要です。問診票の中に書かれている言葉の意味が分からない場合もあります。手話通訳者は大きな役割を担っています。

【喫茶店】

●聞こえない人が買い物をしたり、お店に行って不便なことは何でしょうか？
どういう配慮があれば良いのでしょうか？

●見てわかりやすい表示は、誰もがすぐに理解できます。筆談が出来るものがある、メニューにチェックするだけで良い、など工夫されている店舗も増えてきました。

【仕事】

●聞こえないことで、就けない仕事は何があると思いますか？不便なことは何でしょう？コミュニケーションの方法は？人間関係はどうでしょうか？

●ろう学校には、理容業や木工、歯科技工などを学べる専攻科があります。技術を身に付けて、独立している人もたくさんいます。また、薬剤師などの資格も取れるようになり、職種の幅は広がりましたが、やはり聞こえないことによる障壁は大きい現状があります。

【教育】

●ろう学校は全国に何校あるのでしょうか？生徒の数はどのくらいでしょうか？手話ですべて学べているのでしょうか？※高等教育（大学等）の中で、必要とされる配慮はなんでしょう？

●ろう学校という名称が少なくなり、特別支援学校聴覚障害部門が増えてきています。口話教育が厳しかった時代に比べると、手話を言語として使えるようになりましたが、手話で教育出来る教員の数は圧倒的に少ない現状があります。また、生徒の数も減少しています。

●高等教育（大学等）を受ける人も増えており、大学等でのノートテイクや手話通訳者等の支援も出来る環境が増えつつあります。

【聴導犬】

●聴導犬の役割は何でしょうか？どんなことをするのでしょうか？

●音を聞き、その場へ案内する聴導犬の数はまだまだ少なく、認知もされていません。

【防災】

●災害が起こった場合、聴覚障害者が困ることは何でしょうか？日常生活の中で、大切なこと何でしょうか？

●日頃から地域とのかかわりは大切です。まずは、自助！その後、避難場所等で、情報がきちんと提供される必要があります。音声だけでなく、視覚でわかる工夫は、すべての人に有効な手段です。また、災害用パンダナも大切な役割があります。